

平成17年12月28日

各 位

会 社 名 グランディハウス株式会社
代表者名 代表取締役社長 菊 地 俊 雄
(コード番号：8999 東証二部)
問合せ先 取締役管理本部長 齋 藤 淳 夫
(TEL. 028-650-7777)

「当社の安全対策について」の公開について

当社は、昨今の建築物の安全性に対する関心の高まりに対応し、当社の建築物に関する安全対策をとりまとめた「当社の安全対策について」を、下記の通り当社ホームページ上に掲載致しましたので、お知らせ致します。

記

1. 本日掲載した内容 添付別紙の通り。
2. 当社ホームページURL <http://www.grandy.co.jp/>
3. 備 考 掲載内容につきましては、お客様の関心等により今後追加・変更させて戴く場合がありますので、予めご了承下さい。

以 上



当社の安全対策について

地盤に対する安全対策について

当社の建物に関する構造および安全対策について

グランディハウス株式会社

地盤に対する 安全対策について

■土地取得計画時からの安全対策

当社では、取得する土地の事前調査から安全対策を始めております。

現地踏査はもとより、従前の建物の状況、使用、利用状況に関する資料を前所有者、公的機関から入手し、土地に関する履歴を把握することでそれぞれの土地の持つ特性を全体像として捉えます。また、周辺、近隣居住者、関係者よりのヒアリングを平行して行なうことで、より詳細に実態の確認をし、造成、建築計画に反映させております。

たとえば、調査、ヒアリングの結果、土壌に関する汚染の懸念がある場合、国の定める土壌汚染対策法に基づき、有資格者による現土壌のサンプリング、有害物質の含有、溶出有無等の検査を検査機関に依頼し、データを取得しております。万が一問題のある場合には、検査機関とその対策、対処法について十分な協議を行い、指導指示の下完全に解消するまで処理を適切に行い、問題解消を再度検査の上確認しております。

現況からは目にすることができない地下埋設物についても、現地踏査、ヒアリング、各資料から想定し、また必要に応じて試掘を行い徹底的な除去、撤去を行なっております。

■造成時における安全対策

取得した土地は直ちにボーリング調査を行い、地層、地質、地盤支持力、地下水位といった地盤に関するデータを集積するとともに、グループ内に11名在籍する一級土木施工管理技士を中心に検討のうえ、周辺環境に最もマッチする安定した地盤作りのための造成計画、施工方法に関する方向性を決定しております。

また場合によって、造成工事着手前又は造成工事と平行してJIS認定のスウェーデン式サウンディング試験(地盤貫入試験)、国土交通省認定のレリー波による表面波探査試験を行い、地盤支持力の測定、圧密沈下量の想定、地層の傾斜、地中異物の確認といった従来では住宅建築時のみ行なっていた調査を行うことで、造成分譲地全体のより安定した地盤の確保、確認を図っております。

当社は地盤に関する安定性を家作りの上で最も重要と考えているため、この試験機械を自社で所有し、専属スタッフがコンピュータ制御のもと試験を行なっておりますので、きめ細かで、俊敏な対応が可能であり、そのデータが土地造成にも生かされております。

事前調査の結果を踏まえ、現状の地盤支持力、地耐力に不安のある場合は、土砂の入替え等の改良工事、徹底的な重機械による転圧等も実施し、より均一で硬い、そして安定した地盤を造成するとともに、工場で作製された高品質なコンクリート二次製品を可能な限り使用し、施工時における品質のばらつきを防止しております。

■造成が完成した宅地における安全対策

当社では宅地造成工事が完了し、建築工事着手前に一区画毎、一棟毎全ての宅地において、建物平面プランに基づき4箇所以上のスウェーデン式サウンディング試験を実施しております。また随時ボーリング調査、表面波探査試験を追加実施し、一棟毎、より正確な地盤に関するデータを集積のうえ社内の一級建築士、一級土木施工管理技士を中心にその安定度、地耐力、推定圧密沈下量について分析、検討しております。これにより少しでも不安要素が確認された場合、また有害な不同沈下等恐れが確認された場合、再転圧、地盤安定処理工法、置換え工法といった地盤安定対策工事を行うとともに、支持層、地下水位等を考慮の上より安全性を高めるため表層改良工事、杭工事、柱状改良工事等も必要に応じて実施しております。

当社の建物に関する構造 および安全対策について

■基礎構造について

当社の建物基礎は、十分な地盤支持力が得られている場合においても、シングル配筋のベタ基礎構造を標準仕様として採用しております。

これは、一般的な布基礎と比べて基礎としての一体性が高く、建物の荷重を面で受けるため、安定性に優れ、また地震、振動などの影響による基礎割れ等の被害を防ぐためには有効な構造であると判断しております。

各断面としては、基礎立ち上り部分を150ミリ厚とし、内部の鉄筋からの「かぶり厚」を40ミリ以上（建築基準法施行令79条）確保、耐圧盤については、スラブ厚150ミリ、スラブ配筋D13@200を標準とし、また個々のプランニングにおいては、スラブ支配面積を考慮のうえ二次的補強等を検討し、施工に当たっております。以上の様に、上部構造の荷重を安全にまたより均等に地盤に伝達させるとともに、部分的な変形を抑制する強固な基礎となっております。

鉄筋工事の施工については、施工時の品質のバラツキや人為的ミスを防止するために「ユニット鉄筋工法」を採用し、より均一な施工と作業の省力化を図っております。

■より安心な構造体を目指して

当社の建物は、日本人になじみ深い「木造軸組工法」を採用しております。この工法は、柱、梁等の組み合わせで構成されており、構造的には力を合理的に伝達する工法であり、プラン的には自由性のある工法として広く受け入れられてきました。

構造部材については、無垢材の約1.5倍の強度性能を誇るエンジニアリングウッド（JAS認定品構造用集成材）を採用しております。品質が均一であり、強度性能が表示できる信頼性の高い部材といえます。また、ホルムアルデヒド発散区分が最高等級のF☆☆☆☆相当品を使用しておりますので、シックハウス対策についても安心して頂けます。

建物に対する構造計算については1棟毎に実施のうえ、風圧力、地震力等の外力に対する備えとしての耐力壁、構造金物等の設定を行ない、構造体の安全性を確保しております。また、梁の「たわみ」についても、構造計算ソフトによる梁断面計算値からの安全率を高めるため余裕を見越した設計を行ない、より安定した構造体の築造を実施しております。

■万全な検査システム

構造部材の生産

設計室の最新CADシステムからのデータがプレカットCADと連携し、相互のデータ交換を通じて完成度の高い構造組立図の作成を図っております。また、柱・梁等の構造部材生産においては、グランディプレカット（株）の最新のオートメーションマシンによる精密加工が施され、更に検査員による厳しい検査を経て高品質な構造躯体を生産しております。

施工のチェック体制

建築施工については、当社の検査基準である「15の検査システム」に基づき、着工時から外構工事に至るまでの全工程において、監理技術者（1・2級建築士、1・2級施工管理技士）による入念なチェックを行うことで品質管理の徹底が図られております。

また、全棟が確認審査機関等による中間検査、完了検査を経て「検査済証」を受領した建物として「お引渡し」させて頂いております。（注：中間検査制度が設けていない地域を除く）